



2026年12月期 第2四半期

決算説明資料

株式会社スペース

プライム市場：9622

2026.8.7

space

決算説明会にあたり
ごあいさつ

INDEX

第1部

2026年度第2四半期 決算の概要

- 5 業績ハイライト
- 6 営業利益増減分析
- 7 売上総利益推移
- 8 外注費推移
- 9 販売費及び一般管理費推移
- 10 四半期業績推移

第3部

2026年度 業績予想

- 22 2026年度 上期実績
- 23 2026年度 業績予想
- 24 配当予想

第2部

2026年度第2四半期 事業の概況

- 12 市場分野について
- 13 売上高推移（市場分野別）
- 14 売上高（市場分野別）
- 15 四半期受注高・受注残高推移
- 16 市場分野別受注残高
- 17-18 受注案件の状況
- 19-20 事業の成長に向けて



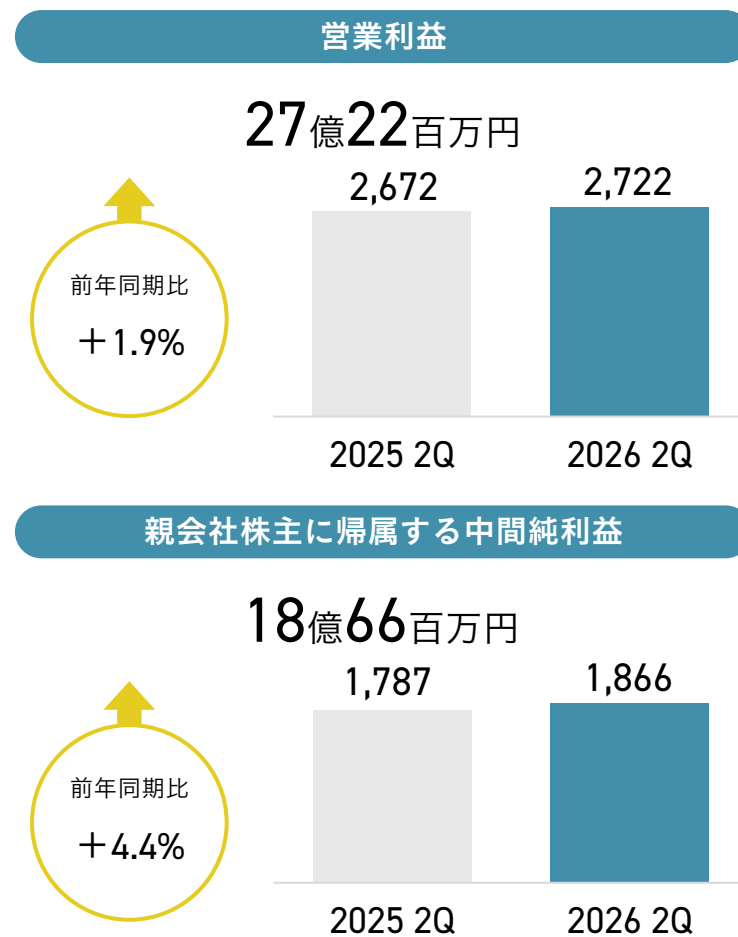
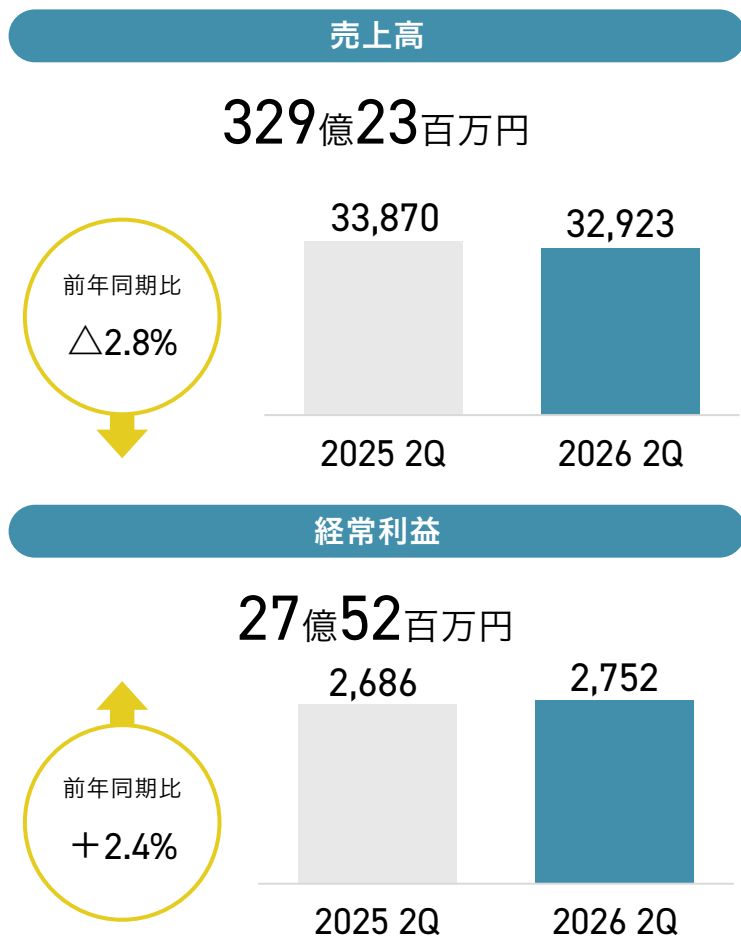
第1部

2026年度第2四半期 決算の概要

- 5 業績ハイライト
- 6 営業利益増減分析
- 7 売上総利益推移
- 8 外注費推移
- 9 販売費及び一般管理費推移
- 10 四半期業績推移

業績ハイライト

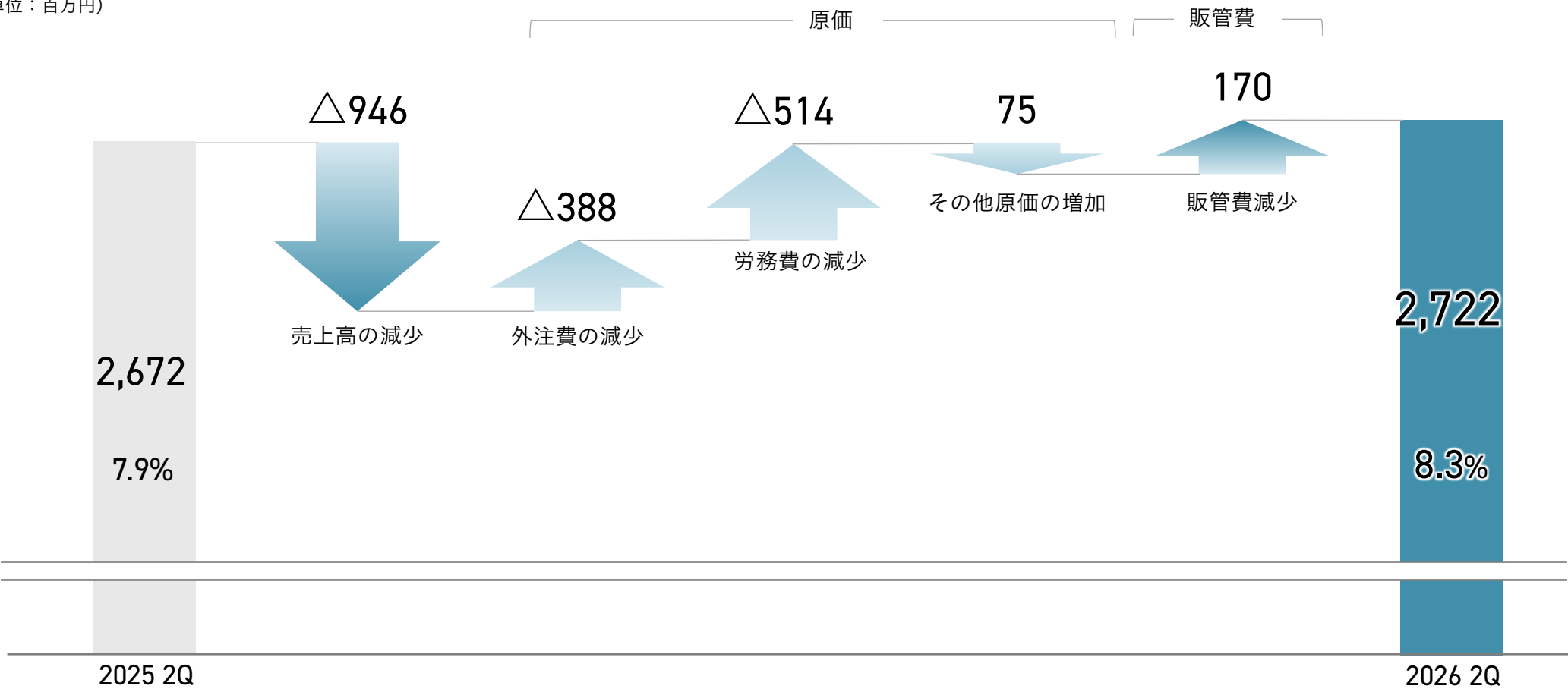
各種専門店分野が堅調に推移した一方、複合商業施設・総合スーパー分野の減少により、売上高は前年同期比2.8%減
案件ごとの提案精度向上やプロジェクト推進力の強化を通じて採算性の向上を図った結果、各段階利益は前年同期を上回る



営業利益増減分析

販管費の減少により、営業利益率は前年同期比で0.4ポイント増加
 売上総利益率は前年同期と同程度の水準を維持しているため、引き続き付加価値提案による利益向上に努めていく

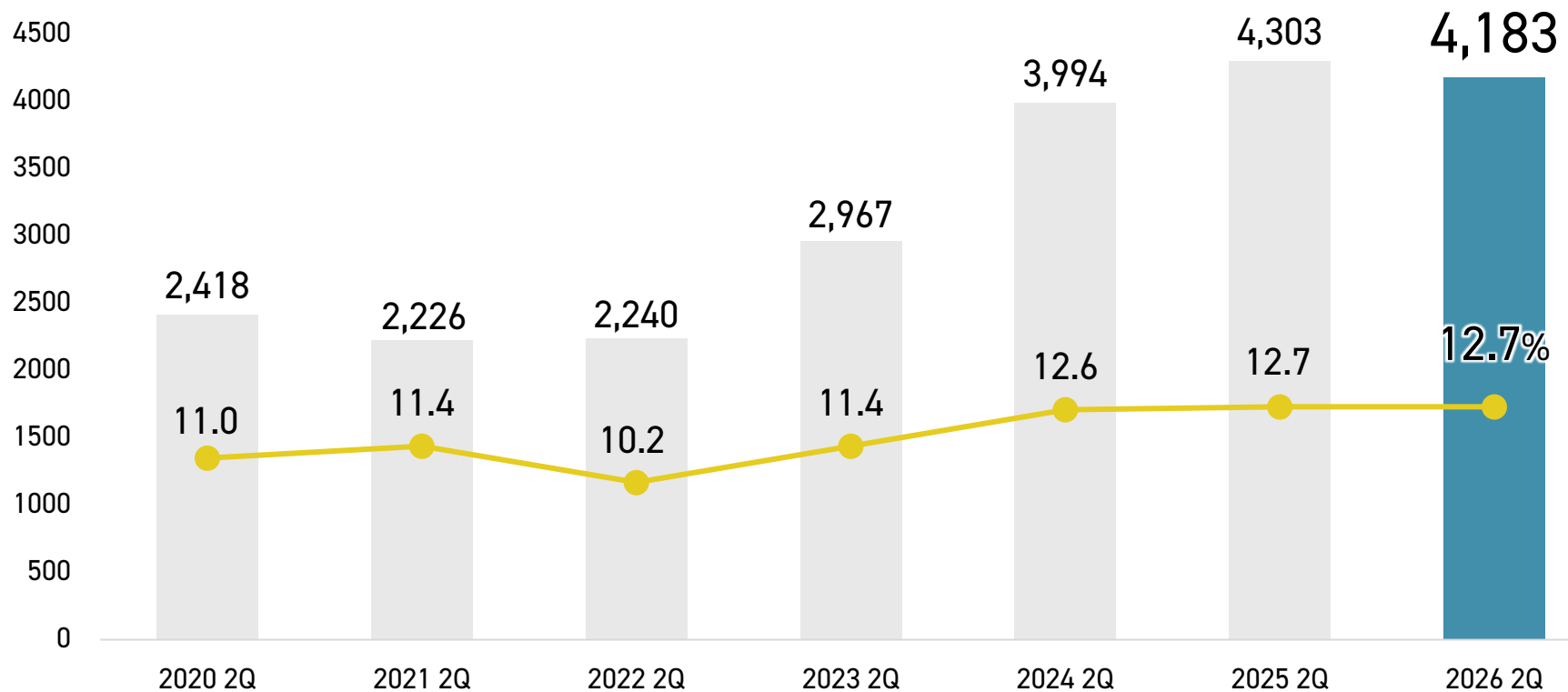
(単位：百万円)



売上総利益推移

売上高の減少により売上総利益は減少したものの、売上総利益率は高水準で推移

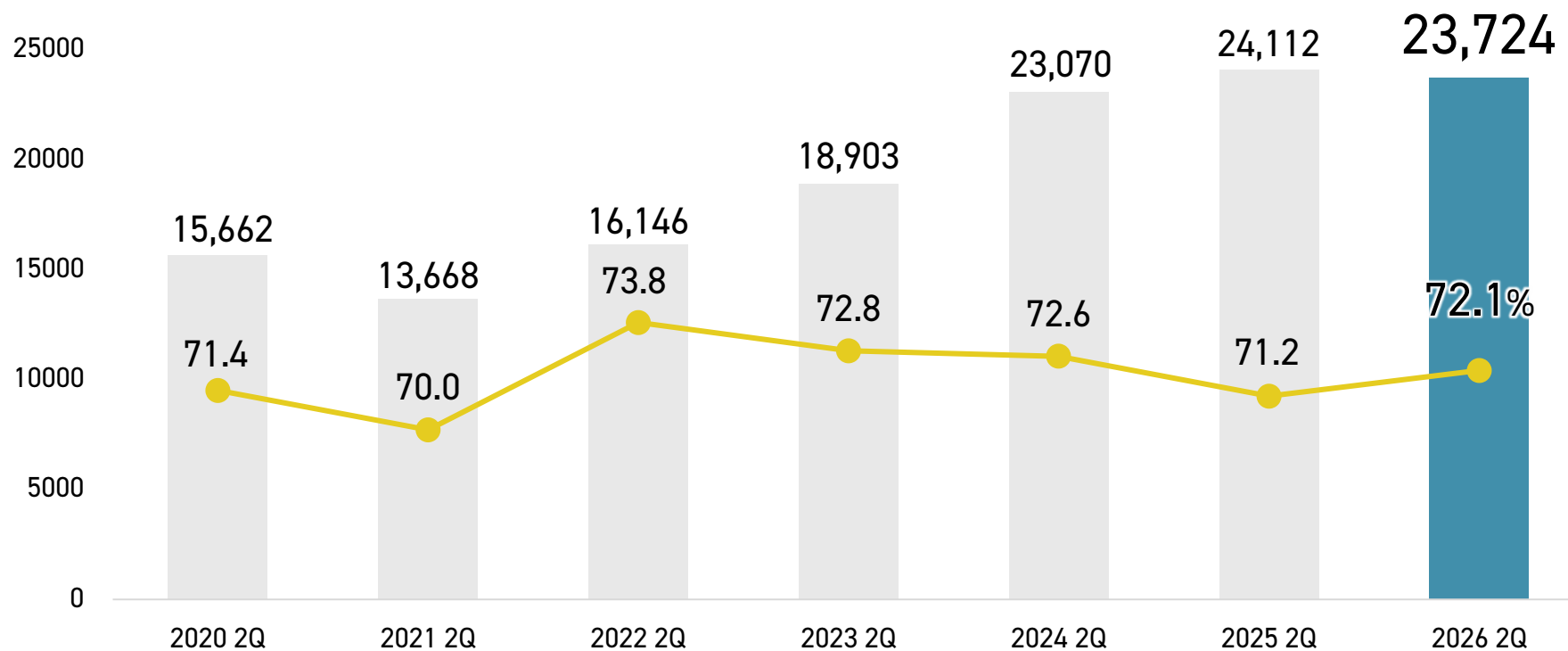
(単位：百万円) ■ 売上総利益 — 売上総利益率 (%)



外注費推移

売上高の減少により外注費は前年同期比で1.6%減少したものの、外注費率は前年同期比で0.9ポイント上昇

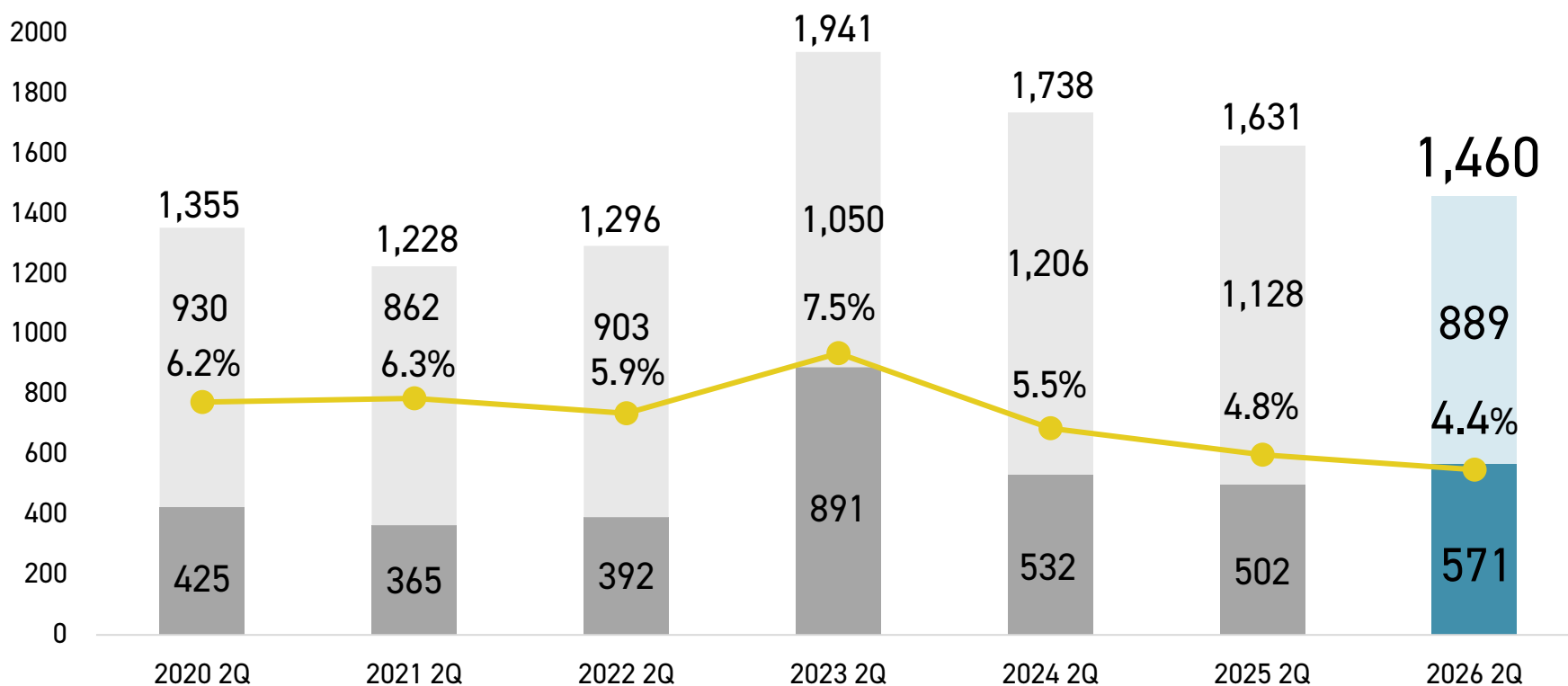
(単位：百万円) ■ 外注費 ▲ 外注費率 (%)



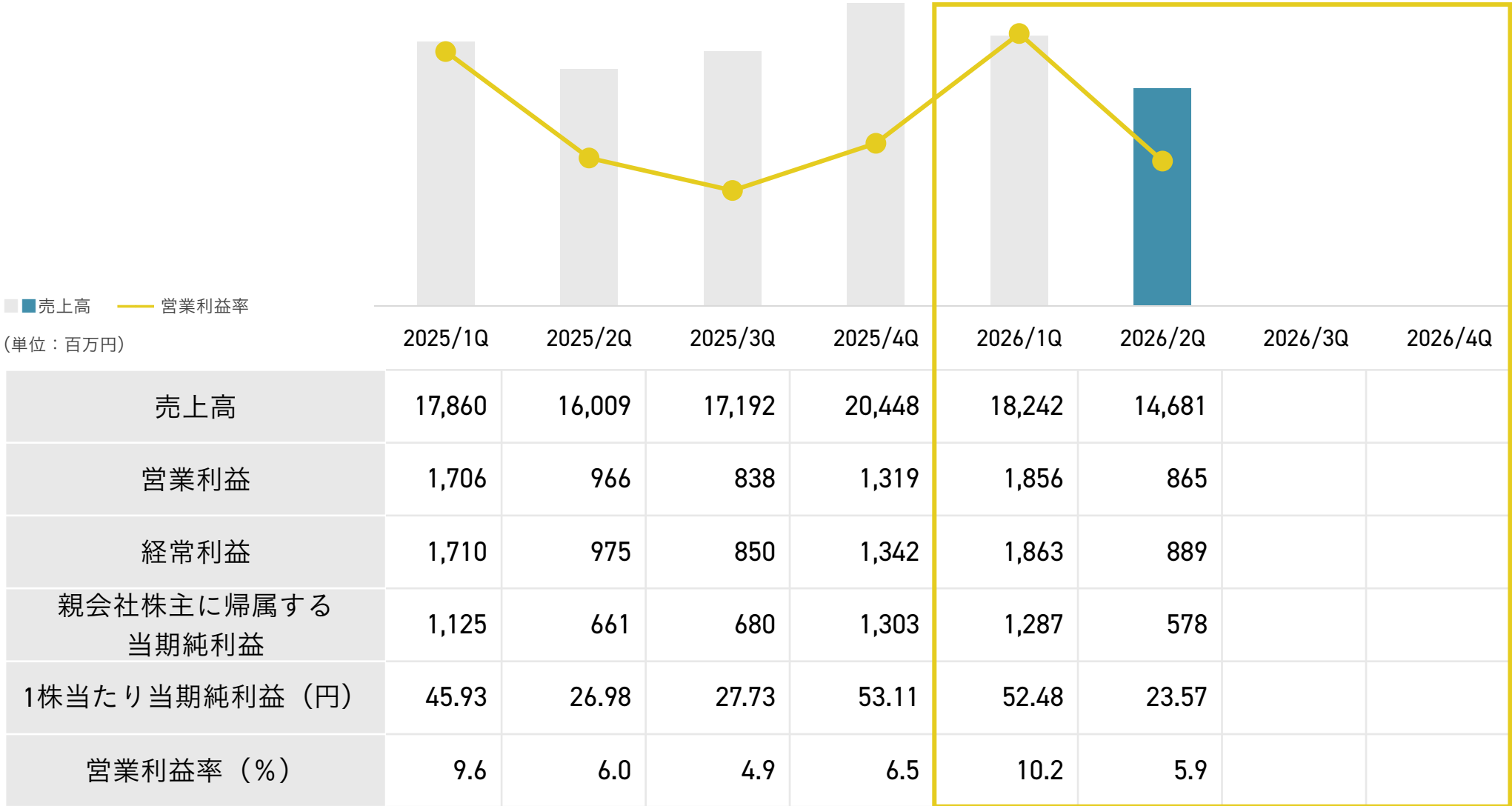
販売費及び一般管理費推移

業務効率化に伴うシステム費の計上により経費は増加したものの、
開発部門費用の原価計上に伴う労務費の減少により、販管費は前年同期を下回る結果となった

(単位：百万円) ■ 経費 ■ 労務費 — 販管費率



四半期業績推移





第2部

2026年度第2四半期 事業の概況

- 12 市場分野について
- 13 売上高推移（市場分野別）
- 14 売上高（市場分野別）
- 15 四半期受注高・受注残高推移
- 16 市場分野別受注残高
- 17-18 受注案件の状況
- 19-20 事業の成長に向けて

市場分野について

複合商業施設・総合スーパー



サービス等



食品スーパー・コンビニエンスストア



商空間
プロデュース企業



各種専門店



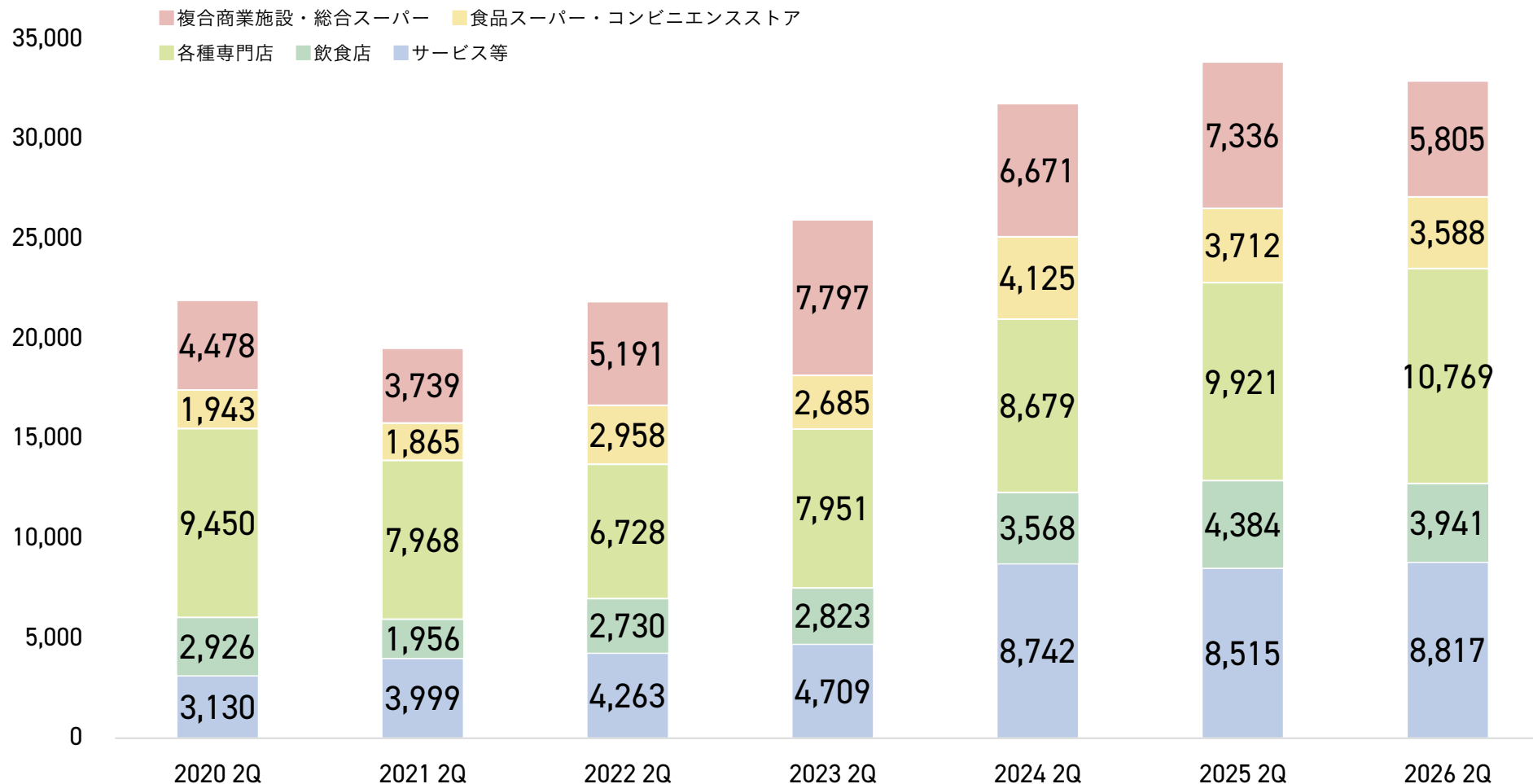
飲食店



売上高推移（市場分野別）

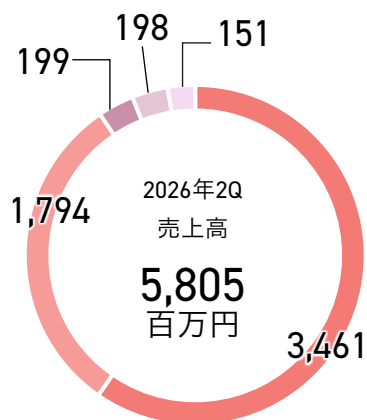
服飾雑貨店において大型旗艦店やハイブランド案件を複数手掛けたことに加え、
ドラッグストアの新装・改装案件の増加により各種専門店分野が伸長
医療・福祉施設の大型案件に加え、ホテルにおける改装案件の増加でサービス等分野が堅調に推移

（単位：百万円）



売上高（市場分野別）

複合商業施設
総合スーパー

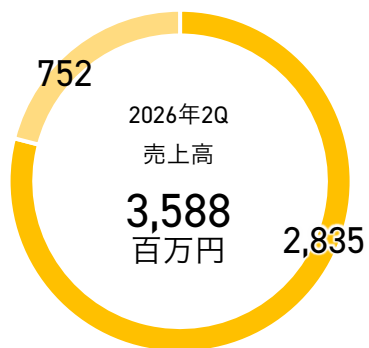


■ 商業施設 ■ 総合スーパー
■ 百貨店 ■ 交通付帯施設
■ その他

前年同期比
△20.9%

構成比
17.6%

食品スーパー・
コンビニエンスストア



■ コンビニエンスストア
■ スーパーマーケット

前年同期比
△3.3%

構成比
10.9%

各種専門店



■ 服飾雑貨 ■ 衣料品
■ インテリア ■ ドラッグストア
■ 食物販 ■ その他

前年同期比
+8.5%

構成比
32.7%

飲食店



前年同期比
△10.1%

構成比
12.0%

サービス等



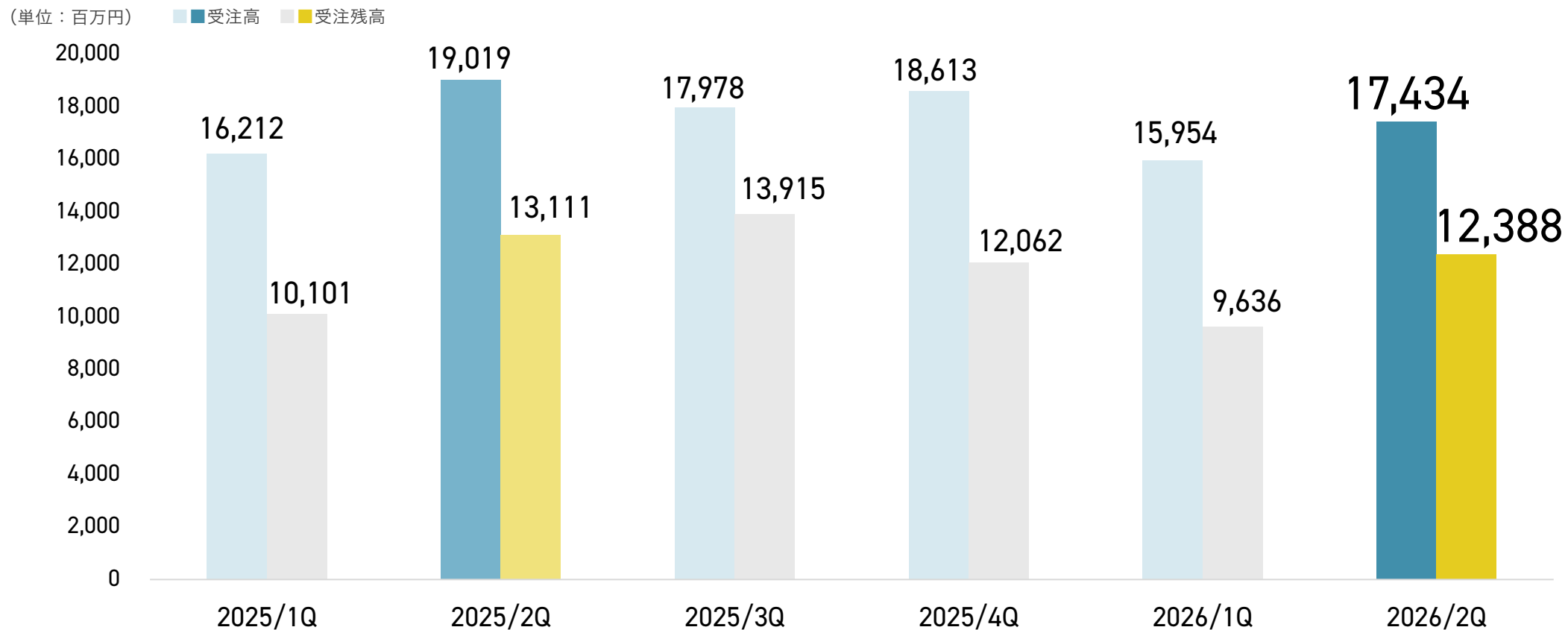
■ オフィス ■ ホテル
■ 医療・福祉施設 ■ スポーツ
■ 学習・教育 ■ その他

前年同期比
+3.5%

構成比
26.8%

四半期受注高・受注残高推移

国内は堅調に推移している一方、海外子会社において前年同期の受注高が高水準であった影響により、四半期受注高は前年同期比8.3%減少、四半期受注残高は前年同期比5.5%減少



市場分野別受注残高

受注環境は総じて堅調であり、来期以降につながる案件も順調に進捗

市場分野		2025年2Q		2026年2Q	
		金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）
■	複 合 商 業 施 設 総 合 ス ー パ ー	3,281	25.0	2,645	21.3
■	食 品 ス ー パ ー コ ン ビ ニ エ ン ス ス ト ア	398	3.0	1,136	9.2
■	各 種 専 門 店	3,210	24.5	2,856	23.1
■	飲 食 店	1,834	14.0	1,492	12.0
■	サ ー ビ ス 等	4,386	33.5	4,256	34.4
合 計		13,111	100.0	12,388	100.0



受注案件の状況

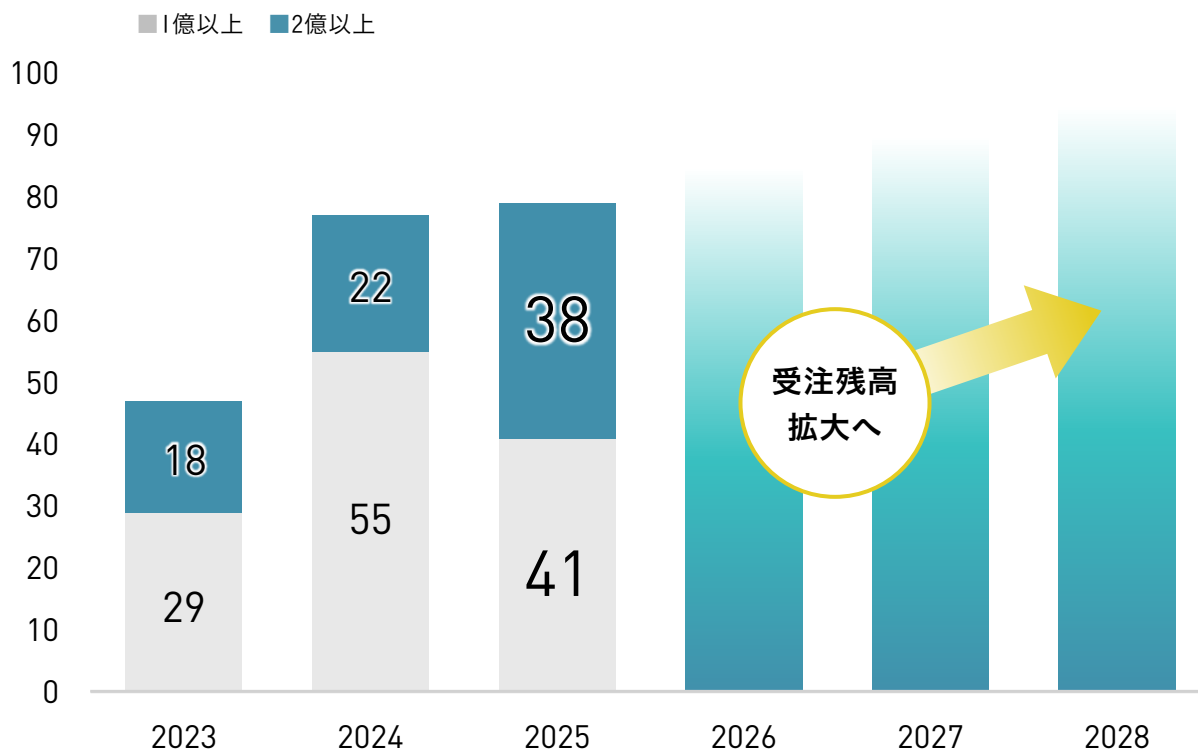
旗艦店やハイブランド案件で各種専門店分野の受注が好調に推移
ホテルや医療・福祉施設などサービス等分野でも大型案件の受注を着実に獲得



受注案件の状況

高い継続性と特命比率を強みに大型案件の引き合いが拡大
全国で進む新設・大規模リニューアルをトータル受注し、受注残高の拡大を目指す

大型案件の受注件数推移



2027年以降の大型案件の特徴

- 商業・オフィス・公共／交通など、
大型施設の 新設＋大規模リニューアルが進行
- 企画コンサルティング・設計・施工、
内装監理業務までトータル受注

受注の安定性・継続性

継続顧客売上高比率
80%超

特命比率
75%超

事業の成長に向けて

川上から施設づくりを構想する「企画提案力」と、現場を担う「現場実装力」を高め、持続的な企業成長を実現する

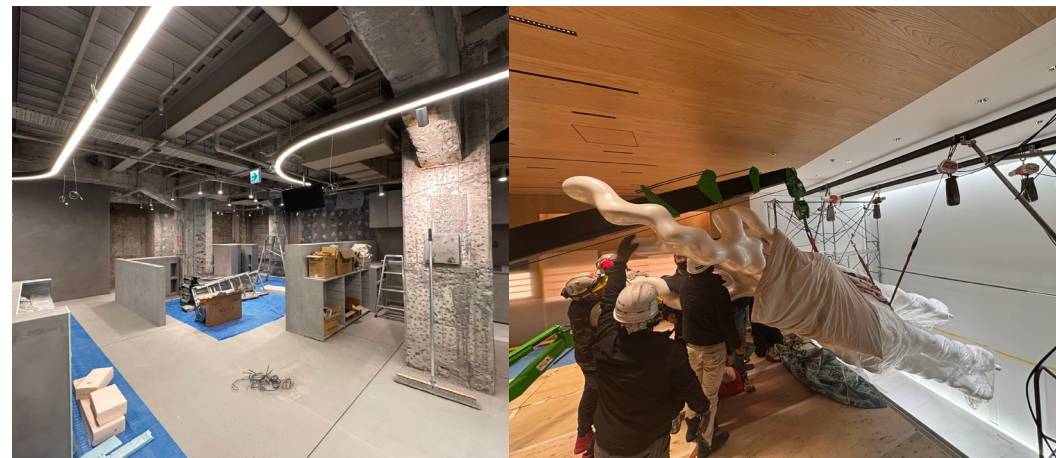


▶ 受注残拡大に向け、空間づくりを川上から支援できる体制へ

▶ 大型かつ高度な案件に対応できる、ものづくりの基盤を強化



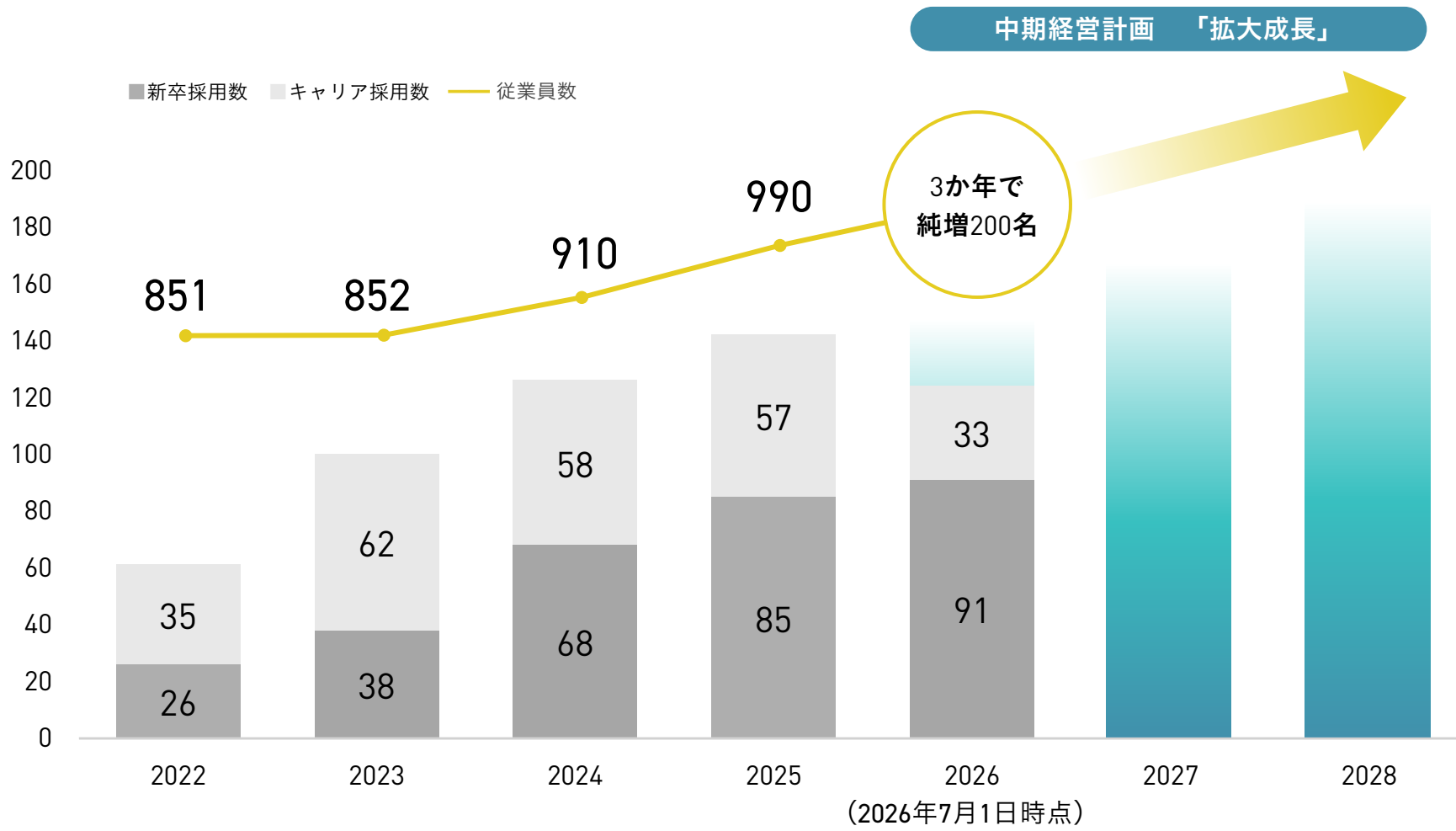
※大規模複合開発・まちづくりに計画段階から参画（写真はイメージ）



※現場イメージ

事業の成長に向けて

受注残高の拡大と企画提案力・現場実装力の向上を支える人材を着実に確保・育成し持続的な成長へ





第3部 2026年度 業績予想

- 22 2026年度 上期実績
- 23 2026年度 業績予想
- 24 配当予想

2026年度 上期実績

収益力向上により各段階利益は計画を上回って推移
事業領域拡大および人材体制の強化など成長基盤の整備も進展

	2026年度 第2四半期（中間期） 期初計画(百万円)	2026年度 第2四半期（中間期） 実績(百万円)	増減額(百万円)	増減率（％）
売上高	35,600	32,923	△2,676	△7.5
営業利益	2,500	2,722	222	8.9
経常利益	2,500	2,752	252	10.1
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,600	1,866	266	16.7
1株当たり中間純利益（円）	65.24	76.04		

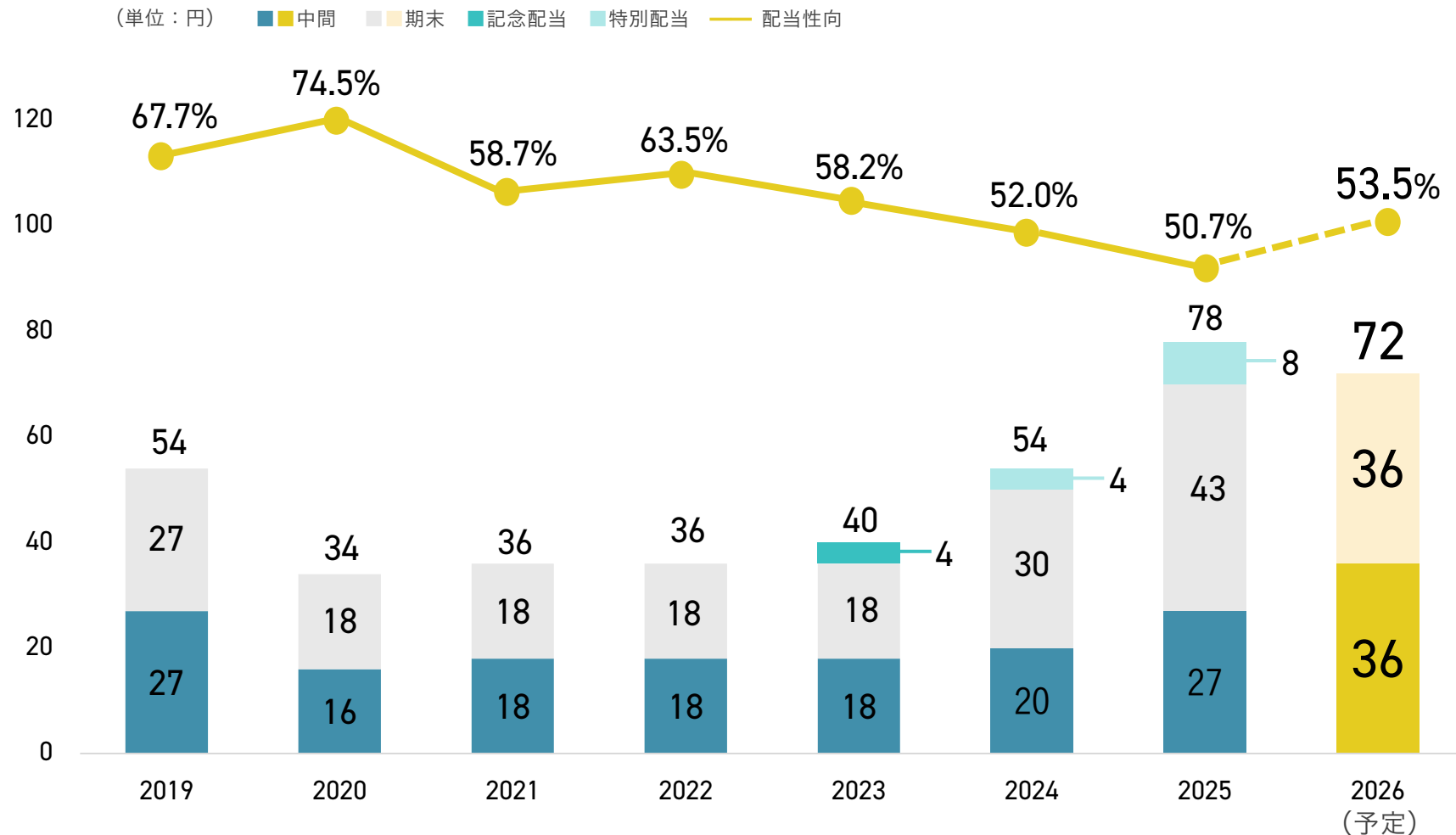
2026年度 業績予想

営業利益は堅調に推移しており、計画達成およびさらなる積み上げを目指す
一方、当期純利益の減少は、前期に適用された賃上げ促進税制による法人税軽減の反動によるもの

	2025年度 通期実績(百万円)	2026年度 通期予想(百万円)	増減額(百万円)	増減率 (%)
売上高	71,511	72,000	488	0.7
営業利益	4,830	5,040	209	4.3
経常利益	4,879	5,040	160	3.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,770	3,300	△470	△12.5
1株当たり当期純利益 (円)	153.76	134.57		

配当予想

当期配当額は72円を下限とし、業績に応じた株主還元を目指す
配当に加え、自己株式取得をはじめとする資本効率の向上を継続的に検討していく



※2023年は記念配当4円、2024年は特別配当4円、2025年は特別配当8円を含みます



2026年12月期 第2四半期

決算説明資料

株式会社スペース

プライム市場：9622

2026.8.7



2026年12月期 第2四半期

決算説明資料

株式会社スペース

プライム市場：9622

2026.8.7



2026年12月期 第2四半期

決算説明資料

株式会社スペース

プライム市場：9622

2026.8.7